科目名	ソーシャルワーク論	２単位
担当者	田中　千枝子	
開講形態	対面形式　※名古屋キャンパス	
テーマ	ソーシャルワークを理論や方法論として学び、事例研究やロールプレイやカンファレンス体験などを通じて理解する	
科目のねらい	＜キーワード＞①ソーシャルワーク　②実践理論　③社会福祉方法論　④ミクロ・メゾ・マクロ実践　⑤専門性 ＜内容の要約＞ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方や方法を示すソーシャルワーク実践理論やアプローチに関する基本的知識や支援観や視点を得ることによって、特にミクロからメゾレベルのソーシャルワークの専門性の確認をする。また実践事例を分析し、グループ作業によりコミュニケーションをはかる体験をすることで、価値に基づく知識・技術を検証し、さらにそれを専門職のコンピテンスとして身に着けるために集団学習およびレポート作成によるセルフワークによる学習を行う。 　方法としては、実際の事例に対して様々な教育的手法により実践理論・モデル・アプローチを適用し、参加型授業によって個人・集団・地域等一定の視点からの事例の展開を観察し理解し分析し、解釈および評価するプロセスを追い、事例検討の流れを体験する。 ＜学習目標＞人の生活/人生に着目し、社会的枠組みにおいて福祉的課題を設定し、その科学的視点を身に着けることによって、ソーシャルワークの実践方法を理解し、組織・地域・制度に対して、働きかけることができる。ソーシャルワークの理論や展開過程を問題解決に応用する能力として身に着け、多職種に対するコミュニケーションやプレゼンテーション等のマネジメントスキルの研鑽に役立てることを目的とする。	
授業の進め方	第　1 回　オリエンテーション　授業契約 第　2 回　ＳＷの実践理論概論講義 第　3 回　援助観・価値観の理論的変遷　事例による検討 第　4 回　統合理論の概観　事例による検討 第　5 回　バイオ・サイコ・ソーシャルモデル　ロールプレイ 第　6 回　エコシステム論と時間：空間的把握　エコマップ・タイムライン作成　Ｇ作業 第　7 回　ピンカス・ミナハンの４つのシステム理論、地域における多職種他機関連携を意識したエコマップ・タイムライン作成　Ｇ作業 第　8 回　ＧＷに関する基礎理論概観　チームアプローチ協働の型　ロールプレイ 第　9 回　グループ力動論、司会の技術、事例検討、ロールプレイ　ＫＪ法によるＧＷ 第 10 回　課題に対するプレゼンテーション技術　ディスカッションとリーダーシップ 第 11 回　地域福祉の技術と評価　調査研究 第 12 回　エンパワメント評価法　ワークショップのロールプレイ 第 13 回　ＳＷリサーチ　介入計画の作成 第 14 回　ミクロ・メゾ・マクロに展開するＳＷとマネジメント　レポート 第 15 回　グループ発表、まとめ、レポート作成	
事前学習の内容･学習上の注意	○前もって社会福祉学の基礎的な理論や概念の知識（教科書程度）を確認しておくこと ○ディスカッションやロールプレイなどＧ作業や演習形式を多用するので、積極的に参加すること ○専修や専攻を超えて様々な立場の学生が集まるので、多くの仲間を作るようにすること ○集中講義3日間　午前と午後計6回の授業内レポートを課し、理解の内容を確認する	
本科目の関連科目	医療・福祉マネジメント研究科「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の考え方や論文作成の枠組みや問題提起に寄与する。なお本科目は「認定社会福祉士」の資格付与対象科目として認定されている。	
テキスト	木村容子・小原眞知子編　「ソーシャルワーク論Ⅱ―理論と方法―」法律文化社　2023	
参考文献	渡部律子『福祉専門職のための統合的多面的アセスメント』ミネルヴァ　2020 ブトュリム・Ｚ　『ソーシャルワークとは何か』川島書店　1986　その他資料配布	
成績評価方法と基準	集中授業 3 日間で、午前・午後の 2 回×３＝6 回　レポート提出　60% ディスカッションやロールプレイへの参加度　40% 総合評価により 60 点以上を合格とする。	